

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(蜂ヶ岡中学校)

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
					分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1 確かな学力	基礎学力の充実	インフォーマルな研修会を実施して授業法の改善をはかる	授業は分かりやすいか。授業の内容理解について	約9割の生徒が一定わかると回答している	⇒	日々の学習は落ち着いて取り組めているが、家庭学習の少なさは今までと同様である。保護者を含めて学習に対する意識は徐々に高まっているので、さらなる啓発が必要である。	校内研修会を利用して、授業法の改善を今まで以上にはかる。インフォーマルな研修会の充実。保護者への啓発の徹底。	⇒	学校が安定していることへの感謝と、土曜学習などへの協力の申し出。生徒会活動の充実支援。
	家庭学習の充実	教科担任からの話と学校、学年だよりでの啓発	家庭での学習時間について	家庭での学習時間が少ないことが最も課題である					取り組みへの協力の申し出あり。
	図書館教育の充実	選書会の開催、朝読書の取り組み、授業で図書館を利用する	読書への取り組み状況、図書館の利用について	図書館の整備と共に読書に対する関心は増えつつある					
2 豊かな心	生徒会活動の充実	生徒間交流を含めたいわき市立磐崎中学との交流の充実	支援のためのアルミ缶の回収と、12月5日の交流会と3月の訪問	支援への周知徹底をはかる	⇒	生徒会活動は、いわき市の中学との交流を中心にして、活発に取り組みが進んでいる。生徒間の交流も12月5日に行い、3月に代表生徒が訪問する予定。道徳については全員が指導案を作成して検討できている。	交流を全生徒に周知出来ており、さらなる協力を求めて地域住民に広報したい。	⇒	交流活動については、全般的な支援を約束している。アルミ缶回収では、多大な協力を得ることが出来た。道徳や人権学習についての大切さを実感しているとの意見が多い。
	人権学習の充実	最新の教材の発掘と、体験型学習を取り入れる	学習内容を日常に生かせているか	8割5分の生徒から良好な結果が出ている。					アルミ缶の回収開始以降多大な協力を得ている。
	道徳教育の徹底	全教職員が教材を選定し、指導案を作成する	道徳の時間が生活の見直しに役立っているか	8割以上の生徒から良好な結果ではあるが、更なる充実が必要である					
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	月初めに行う挨拶運動、「おはようWEEK」の実施。	生徒会活動や学級の活動に取り組めているか	約8割5分の生徒が良く協力できていると回答している。	⇒	毎朝の遅刻指導でも遅刻者はほとんどいなく、挨拶も出来るようになってきている。	遅刻をする生徒への呼びかけと保護者への働きかけを徹底する。	⇒	遅刻や違反の激減に驚いているとの意見が多数である。
	体力の向上	部活動への参加の奨励と愛宕適応登山の取組	部活動に積極的に取り組めているか	9割以上の生徒が良く出来ていると回答している。					おはようWEEKに協力しているときも多くの生徒があいさつをしてくれるとの意見がある。
4 独自の取組	情報発信の充実	学校だより、HPの充実を図り、適切な情報を発信する	保護者が学校の様子を把握しているか	9割近くの保護者から良く出来ているとの意見がある。	⇒	生徒や保護者のとの信頼関係を強化する中で、安心できる学校づくりを徹底する。時間をかけて徹底的に話し込みをすることが大切である。	大半の教職員は方針を理解している。さらに徹底をはかる。	⇒	学校訪問の際などに先生と生徒の関係が良いことがわかるとの意見がある。
	生徒や保護者との信頼関係の強化	生徒を最優先し、休憩時間、放課後などに生徒と一緒に活動する	適切に対応しているか	9割以上の保護者が適切に対応しているとの回答がある。					生徒・保護者・教職員と地域住民が意識を共有して、一致した取組を進めることができることが学校の安定に大切である。

4 総括・次年度の課題

相対的に取り組み状況は良好であるが、課題はまだまだある。教職員の経験や能力に差があるにせよ、教職員も成長できる学校にするため、常に協力を求めることが大切である。楽しく学校に通えている生徒の比率は9割5分を超えており、全員、全ての生徒が楽しいと言える学校づくりを進めなくてはならない。全ての教職員が学校運営方針を心から理解して具現化に臨むことが何よりも大切である。